

中央設計技術研究所社長

中辻 英二氏

Front Line ~業界の最前線~

# 新ビジョン発表、全国展開へ

中央設計技術研究所(金沢市)はこのほど、2021年度からの新たな経営目標となる「CSSECON5ビジョン(中期経営計画)」を策定した。スローガンには「下水道・環境事業創造企業」へ官民協働企業への変革、挑戦、革新を掲げ、4つのビジョンの実現に向けて、上下水道事業分野の経験と実績の強みを生かして10のシナリオを盛り込んだ。中辻英二社長に策定の背景やその想いを聞いた。

新ビジョンは「現在の2020年度ビジョンの目標である売上高30億円の達成がほぼ見えてきた」と同時に、同社が参加するACKグループが12月の株主総会で『オリエンタルコンサルタンツホールディングス』に商号変更するのに合わせて、将来の幹部候補生となる経営者育成会議メンバーが中心となって約1年かけて練ってきた。

実現するビジョンは▽顧客第一の美談▽事業創造と受注拡大▽利益確保と安定経営▽人材確保育成と社員満足への4つ。そのために、①全国展開・水コン5位②官民連携総合事業③研究開発商品開発④顧客満足信頼品質⑤ACKG連携海外挑戦⑥生産向上M&A⑦指導育成業務改善⑧CSSEブランド⑨成長源泉人材獲得⑩風土文化社員満足への10の戦略シナリオを描いた。

「水道法の改正により官民連携事業やっていく時代を意識するとともに、大手同業他社とは違い、われわれは開拓の地があり、まだ伸び代がある」と、25年度までに東北を含めて全国に展開。今期はグループの強みも生かして、九州へ本格的に進出する。先に福岡で開かれた下水道展・水道展では、同社が独自開発した持

## 「知名度向上へブランド戦略」

「計画最終年度となる25年度には売上高38.5億円、営業利益5%、受注高42.3億円、社員数270人の数値目標を設定。」「社員数は前期末で丁度180人となり、25年度までに90人の純増を目指す。やはり成長企業の源泉は人材。人材がすべてのシナリオに影響してくる」と指摘し、今期から新卒、中途採用問わず社員への報奨金制度を設け、全社員で人材獲得に取り組む。

全国展開を図る同社にとって最大の課題は認知度向上。「水道では全国5位くらい、下水道では全国10位以内に入ってきたが、全国では全くの無名。ブランド化は採用面にも大きな力になる」と、各展示会への積極的な参加や新聞広告などを通じて、ブランド戦略を推進していく。加えて、毎年作成する「情熱とやりがい」の広報誌とともに、このほど業務実績集「レガシー」(第1号)も発刊。関係先や大学などにも配布し、「CSSE(中央設計)ブランド」の全国への浸透を目指す。



なかつじ・えいじ 富山県立技術短期大学(現富山県立大学)衛生工学科卒業後、1980年入社。以来、技術畑を歩み、2011年10月に同社5代目社長に就任、現在に至る。富山県砺波市出身、59歳。